



浅間古墳 × ドローン



2020年(令和2年)10月吉日
富士市 市民部
文化振興課
富士市埋蔵文化財調査室

「空中レーザー測量」実施

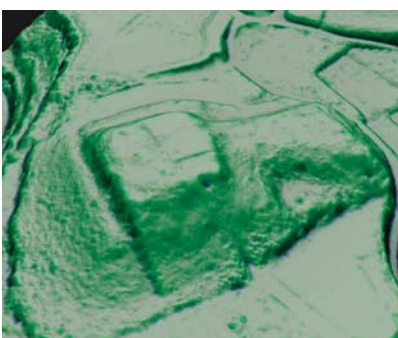
木々に埋もれた前方後方形くつきりと

静岡県富士市増川に所在する国指定史跡「浅間古墳」で、令和2年6月、古墳の詳細な形状を把握・記録するための空中レーザー測量調査が古墳を中心に南北150m、東西300mの範囲で行われ、このたび、データ解析が終了したため富士市役所文化振興課が成果を公表した。

空中レーザー測量では、上空を飛行するドローンから地上へ向けてレーザーを照射し、ドローンと地表面との距離を計測し、三次元データを取得する。このレーザー光は、木々が生い茂る場所であっても地上まで届くため、レーザー測量によって得られた三次元データを解析することで、木々に埋もれた浅間古墳(下図①)の地形が詳細に図化され、前方後方形の墳丘が鮮明に現れた(下図②・③)。



浅間古墳の位置



鮮明になった浅間古墳(高さを15倍にして表示)

浅間古墳では、平成9年に静岡県教育委員会からの委託を受けた静岡大学人文学部考古学研究室による測量調査が行われているが、今回のレーザー測量では、より広範囲での三次元データの取得を目的に国と県の補助金を得て調査が実施された。

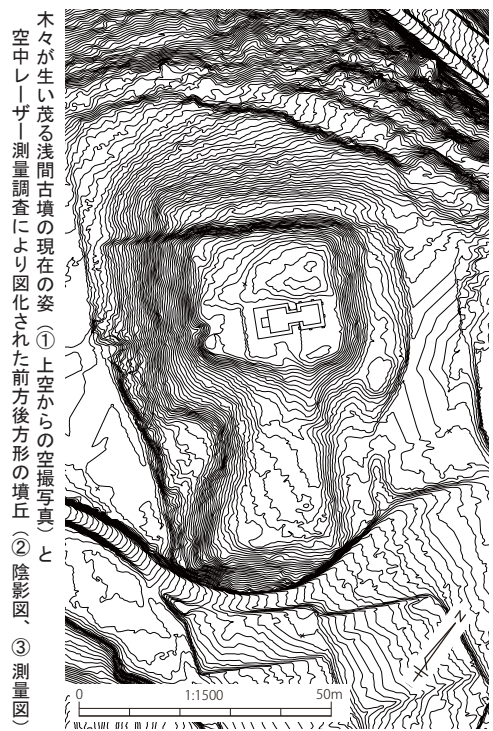
調査の結果、現地での肉眼観察では明確でなかった後方部側面の平坦部(テラス部)の存在が判明し、後方部二段、前方部一段築成の前方後方墳であることが明らかとなった。また、以前から指摘されているように古墳の北側(山側)と南側(海側)では古墳の高さが大きく異なり、海側から見たときにより大きく見えるように造られていることが明確となり、浅間古墳が墓としての性格に加え、人々からどのように見えるかを強く意識して造られた記念碑的な性格を持つことも明らかとなった。

取得した精密な計測データから古墳を俯瞰する鳥瞰図も作成しており、今後、インターネットを通じて、自由自在にさまざまな角度から浅間古墳を動かしてみることができるようなデータの公開も計画している。

調査を担当した市役所文化振興課の佐藤祐樹主査は「コロナ禍の中でも実際に現地に行けない全国の方々にも、浅間古墳をより身近に感じてもらいたい。」と話す。

【浅間古墳】古墳時代前期後半(4世紀中頃)に築造されたとみられる全長約91mの大型前方後方墳。前方後方墳としては東海地方で最大の規模であり、沼津市の高尾山古墳、神明塚古墳に続いて築かれた東駿河の首長墓。

昭和32年7月に国史跡に指定された。令和元年10月には地中レーダー調査が行われ、後方部に堅穴式石室と想定される埋葬施設が残存していることが明らかとなっている。



③ 測量図



② 陰影図



① 浅間古墳上空からの空撮写真

木々が生い茂る浅間古墳の現在の姿(①)上空からの空撮写真と空中レーザー測量調査により図化された前方後方形の墳丘(②)陰影図、③測量図